

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 98を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇「こどもエコクラブ」のご紹介
ー地球のワクワク！発見しようー

(公財)日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局
橋本 牧子

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 98を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

9月16日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は [PVC News No.98](#) を発行しました。
No.98号の構成は以下の通りです。

◎トップニュース

・特集/塩ビと持続可能性

ー持続可能な社会の一翼を担う塩ビ製品。資源の有効利用へ、新たな挑戦もー

・どうなる? 「運営計画」「調達コード」の行方。

検討状況を東京大会組織委員会に聞く

◎シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

みんなで創る「持続可能なオリンピック」

ーオリンピック開催は持続可能な社会構築への好機、全員参加で戦略づくりをー
ジャーナリスト・環境カウンセラー

NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 崎田 裕子 氏

◎リサイクルの現場から

日本公防(株)の廃プラリサイクル事業

ー北海道の資源循環を支えて28年。農業用廃プラを高品質の再生原料にー

◎インフォメーション1

ご存知ですか? バブルサッカー

ー透明塩ビのバンパーをかぶって、ゴールを狙え! 人気急上昇中の新球技ー

◎インフォメーション2

科学とアートの融合。「だいちの星座ーいばらきけんぼく座」

プロジェクトに塩ビ管がひと役

◎塩ビ最前線

軽量でエコ。多彩な特長で話題の塩ビ製仮囲い

ー(株)三共の「プラットウォール」&「ノパッとE3パネル」に見る、塩ビ最新事情ー

◎広報だより

- ・下水道展 '16名古屋で塩ビ製配管の耐震・長寿命・リサイクル性能をPR
- ・お知らせ/「2050年目標を見据えた建築物の持続性と高性能化を考えるシンポジウム」in 東大

今号では、「トップニュース」と「さきがけびとにきく」において2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の主要テーマである『持続可能性』とそれに大きく貢献できる可能性のある塩ビの特集を組んでいます。組織委員会は可能な限り再生利用や再使用ができる製品を使用し、使い終わった後をどうするかまできちんと考えた上で調達する方針です。塩ビ製のパイプや床材、パーティションや仮囲い（「塩ビ最前線」で紹介）などリサイクル技術のある製品は大きく貢献できると考えられます。また、テントについても、ロンドンオリンピックでは、競技場を覆うデザイン性のある構造体として使用され、使用後は再利用やリサイクルがされた経緯があります。日本でも日本テントシート工業組合が新しいリサイクル技術の開発を行っており、再使用も含め大会に積極的にテントの使用を提案していくとのことです。

『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご購読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇「こどもエコクラブ」のご紹介

—地球のワクワク！発見しよう—

(公財)日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局
橋本 牧子

<「こどもエコクラブ」とは>

こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも・どこでも無料で参加できる環境活動のクラブです。学校でも、家族でも、企業でも、子どもたちと環境活動・環境学習をしていれば、いつでも登録できます。地域に根ざした子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることが目的としています。

こどもエコクラブは1995年度環境省事業としてスタートし、2011年度より公益財団法人日本環境協会が引き継いで、環境省の後援、文部科学省の支援のもと、地方自治体、企業・民間団体の協働取組として実施しています。

20周年を迎えた2015年度は、全国各地で2,127クラブ、122,129人の子どもたちが登録・活動しました。地域事務局として地域活動を支えていただく地方自治体は487。プログラムや教材、資金をご提供いただいた企業は50社を数えます。塩ビ工業・環境協会さんも今年からこどもエコクラブのパートナー会員となっていただきました。

<子どもが育ち・地域が元気に>

子どもの成長には「なぜ？どうして？」と思う気持ちが欠かせません。こどもエコクラブは好奇心を刺激して、自ら考え、探求しようとする意欲を引き出し、解決に向けた行動を生み出します。仲間と一緒に活動することは協調性や責任感を高め、コミュニケーション能力を強めるとともに、他者を思いやる気持ちが育ちます。

こどもエコクラブとして14年間活動している「しんそう世界だいすきクラブ」(茨城県水戸市)は、小学1年生の子どもたちに虫眼鏡を持たせて「気づき」を促すことからスタートします。最初は「虫眼鏡を持たされて遊ぶだけ」だった子どもたちが、1年間活動を続けると季節の移り変わりや環境の変化に気づくようになりました。活動に消極的だった子が仲間と一緒に活動するうちにだんだんと楽しくなり、上の学年の子が下の学年の子をサポートするようにもなります。続けることによって心や行動の成長が目に見えてくるのです。地域の行事にも積極的に参加し、地域にも良い効果をもたらします。子どもたちは、地域の人と関わることで地域の一員であることを認識し、活動への責任感と地域への愛着を感じるようになりました。



「しんそう世界だいすきクラブ」の活動風景

地域の社会経済の衰退が危惧されるなか、次世代を担う次世代の子どもたちの育成は地域にとって大きな課題です。子どもたちの活動を応援することによって環境保全が進むだけでなく地域の活性化にもつながります。子どもの活動を通して地域も育つことがこどもエコクラブの大きな特色です。

<企業とこどもエコクラブのウィンーウィン>

こどもエコクラブは地方自治体、企業の方々と共に活動することを大切にしています。大人たちが真剣になって環境問題の解決に取り組んでいる姿を見て、また、共にエコ活動を行う経験を通して、子どもたちが勇気づけられるからです。

企業の関わりはさまざまです。例えば、バンダイナムコホールディングスはクラブの活動に社員が参加し、社員の環境学習に結びつけています。イオン株式会社は、「イオンチアーズクラブ」としてイオンの店舗を拠点にクラブを作り、地域に根ざした環境学習や体験プログラムを行っています。幼稚園や保育園などに給食サービスを行うミールケア社は、日本の食文化を大切にしようという強い思いを持ち、食育劇や食・農の体験プログラムを実施しています。公益社団法人岡山東法人会は、毎年、自治体と共催してこどもエコクラブの交流会を開催して地域貢献をしています。



(株)ミールケアの
味噌作り体験プログラム風景

2016年3月に早稲田大学を会場に開催した「こどもエコクラブ全国フェスティバル2016」では、13の企業や団体がブース出展して、当日参加した200人の子どもと300人の大人に環境教育プログラムを実施。子どもたちは最新の企業の動向を知り、企業は環境に関心の高い参加者に自社の取組を伝えることができました。

その他にも、企業がこどもエコクラブと関わる可能性はたくさんあります。この記事を見て関心を持たれた方は、こどもエコクラブ全国事務局にお問い合わせください。私たちは、皆様とのコラボレーションを心から願っています。

⇒ [こどもエコクラブ全国事務局サイト](#)

TEL : 03-5643-6351 E-MAIL : j-ecoclub@eic.or.jp

■ 編集後記

メルマガ 556号に引き続き台風について

今年台風第1号が発生したのが7月と過去2番目(1番目は1998年)に遅く、台風10号のように東から西に向かって移動し勢力を蓄えて再び東に向かってきた台風も珍しい。気象庁の過去30年間の統計によれば接近数の最も少ない北海道(年平均1.8)に立て続けに台風が接近したのも異例のことで、東北、北海道に甚大な被害をもたらしてしまった。台風の年平均発生数は25だそう今年現時点で16号と例年の半分強、秋の気配が漂ってきたがまだまだ発生するのだろうか? 「備えあれば憂いなし」ではあるが、地震もしかり、天災は人の英知では太刀打ち出来そうもない。(LR)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp